



想

随

キャンパスそぞろ歩き

今村綾

太い柱の堂々たる尋真館、周囲の芝生、丸く刈込んだ黄楊の緑、時計柱を建て松を配した植込、周囲に置いたベンチ、万事整った新町の校庭を出て今出川校地への路——失業対策用道路?——折角舗装されたと喜ぶ間もなく掘り返されている——を歩きながら考えた。この路は人生行路を具象しているのかな、雨の日は泥濘、晴天には小岩? の岬々たる悪路。なるほど「人の世は住みにくい」。今はもはや半世紀にもな

るが私が女学校一年の頃今出川通は電車も通っていなかった。自動車はもちろん見かけなかった。道幅はたいして変らなかつたようにも思うが、舗装もされておらず、晴天には砂塵もうもう、雨の日は泥海。私どもは今出川砂漠と呼んだ今は面目一新して今出川御門と石堀にのみ昔が偲ばれる。しかもなお私には思い出の路である。

シダの見える中学の堀に沿って中学の門に入る。南側には掲示板があり、受験生激励文と体育団体の勧誘のビラが寒風に晒らされている。北には古色を帯びた彰栄館の前に菩提樹が「人來り人去つた」九十年の歴史を重厚な葉裏に秘めて深緑に茂り、頭上には大時計が太古の時を刻むか、針の動く様子もない。樟並木道の真中に大きなヒマラヤ杉、その彼方には天に摩する大銀杏が黒々とした幹を見せている。チャペルの前の大棟は今葉を落して冬空に枝を張っている。北方には寧静館、立志館、同工館が近代建築を誇っている。明德館、理科学館、弘風館、至誠館、新旧神学館が並んでいる。並木道に白梅が淨らかに咲き匂っている。「真理は寒梅に似たり 寒風を侵し

て 開く」と有終館脇の立額にある。落着いた緑に映えて毅然と花開く梅の姿に真理探求、学問の道の峻厳が胸に徹する。

今は学生の姿も少い。アベニューの両側の立枠もビラも少く、只一二寮の管理運営はわれわれの手で「学友会」とあるだけである。四月に入れば名文も迷文も誤字も出て来るだろう。内容には同情出来るものあり領けぬものもある。去年は「原潜寄港反対」「授業料値上げ反対」「寮の光熱費問題」が校庭を賑わしていた。若い人たちの時の思想に、動きに敏感、真摯にぶつつかって行く態度に敬意を感じる。ただもつと簡潔肺腑に徹するもの、美的感覚を盛つたもの、ユーモアのあるものが欲しい。またその責を果した後の整理を望むものである。時には教職員組合の横幕、立幟りに浮世の隙間風を寒々感じる。正門にある「良心の全身に充滿したる丈夫の地の來らん事を」の碑に省みて忤怩たるものがあるのは私のみだろうか。路を経て向に図書館ありデントン記念館等女子部校舎が並んでいる。女子部は私の故郷である。昔のままの姿である。只女子部への路の傍に石燈籠が今もある。只

惜しむらくは有刺鉄線のあることである。しかし私たちが歌い、また語り合ひ時にはミス・デントンに叱られた——慈みにみちた注意を受けた藤棚はもうない。ミス・デントンに教えられて植えた花壇もない。当時の恩師も友達もない。

“All, all are gone, the old familiar faces”  
Charles Lamb

の詩が胸をつく。私はハツ手の植込みの傍らに立ちつくした。“to muse on the old familiar faces.” (経済学部教授・経済英語)

## 教育する喜び

宇野 勇 次

この表題は最近の私の説教題です。政治する喜び、というのは、また、その前の説教題です。何も私自身が政治家でも教育家でもないし、また信徒に政治家になれとか教育家になれと奨めるための説教でもありません。その意図するところは「キリストに従う」ということは必然的に政治のことに教育の場へまた経済の問題にも充分問題

意識をもたねばならぬということを表わしたかったに外ならないのであります。

政治への問題意識と教育へのそれや経済についての発言は実に信仰者の喜びであり誇りである。否その喜びがあつてこそ「キリストに従う」者と言えるのであると気がついたからであります。

さて教育する喜びなのですが、最近「期待される人間像」とか「人造り」等で多くの人々が発言しておられるのは実に気持がよい、この意味では日本も進んだものだと嬉しくなる。そしてここで私なりにこの問題について発言することの喜びをつくづく味わっております。私は聖書の中から二つの互に触発する提題を取り出しました。神の完きがごとくあなた方も完全なものとなりなさい (マタイ福音書五ノ四八)、今一つは、だれでもキリストにあるならばその人は新しく造られた者である (コリント第二、五ノ一七) この二つの間に教育する者の喜びが横たわるのであります。多少の解釈を持たなければその真意を理解して頂けないかも知れませんが、特にキリストにあるならばに充分注意して頂ければ私の言わ

んとするところが理解して頂けるかと思ひます。要点は聖書の人間像を踏台として神の完きに向うということなのです。もっともこの場合、教育する者とかされるものとかの区別は考えられない事は当然です。

それで「期待される人間像」などの中に流れているものを考えに入れながら具体的な言い方をいたしますと、イエスキリストの救いの普遍性と可能性との線から、私の目標する人間はどうも世界性をもった者、ということが出来るようです。もつと具体的な表現を致しますと、その人の言動が世界中のどこの人にも尊敬され、どこの人をも高めることが出来る体の人でありたいと言つこととです。

人間形成を真剣に考える時、狭い範囲の人々にしか尊敬されないような、ある特定の人々しか高めないような小さいことは考へられない、どこの人をも納得させよこの人も共同の人間形成の業を進めて行けるような人物こそが、期待するものでありましよう。従つて国家主義的愛国を土台とした人間形成といったことは考えられないわ

けです。

良心の全身に充滿する丈夫の出でんことを、と言う新島先生の願いが、日本国のため、日本国家のための線を乗り越えて、世界に貢献せんための意図が含まれていたものと私は考えたいのです。

大正八年も暮れんとする十二月半に私は同志社の本部の給仕として勤めることを以て同志社人の第一歩を印したのですが、その翌々年でしたか海老名弾正先生を総長に迎えた、たしか六月頃だったか、全学生に對するメッセージを現在本部のある有終館の石段の上からその前庭に集った学生に向けて、美しいあごひげを撫しながら国際主義を述べられてその就任の挨拶とされた。その時は中学に編入していたので三年生の少年でした。その国際主義という英語が私の耳底に残って今も忘れられないものとなっております。海老名先生はあまり新島先生の感化を深く受けていないように言っておられました。私はどうも新島先生の中における愛国的な面よりも国際人世界人としての面に、識らずして影響を受けて

おられたのでないかと思ひます。私どもの大先輩の深井英五氏も何かの時、同志社の教育は良心教育と国際人的感覚の教育と英語教育である、と言っておられたように記憶しております。確かに同志社人が国際的な舞台で日本に貢献しており、日本を高めて人間を高めておることは他のいづれの私学にも劣らないのではないかと思ひます。その深い根はやはり聖書の持つ人間像の中にあるのだと思ひます。

ちっぽけな日本の国とか、日本国家のためとか言っている時代ではない。真に日本の発言を高く評価させ正しく受け入れさせるのは、実に世界に貢献し人間を高めるために、と言う教育と生活態度の中から出て来るのではないのでしょうか。

日本の国土の美しさを守る、日本の立派な文化を世界に正しい姿で紹介することにかけては先頭に立たねばなりません。特に京都に住む者の責任を感じます。だからといって石庭的な人間をわれわれが育てたり、われわれ自身がそれに浮身をやつたりすべきでない。

(校友・平安教会牧師)

## 良心碑

川島寛治

(女子中高教諭、体育)

寒梅や筆あととどむ良心碑

花八つ手童女受洗の刻待てり

× × × ×

合宿旗氷塵に裂け潔し

懸崖を攀つるたしかさ息白し

風垣の果てや噴煙天を貫く

榎明り土間にたて置く救護櫓

雪原の白き闇裂き星とべる

月明の氷壁剥り滝落ちぬ

月残り氷壁蒼く夜明けたり

日輪や氷壁を射る鷹の影

か  
る  
た

上 野 務

いささか季節はずれの話になるが、岩倉では新春かるた大会が恒例になっている。主として「小倉」をとるのであるが、ほかに聖書がるた・万葉がるた・近代百首などあり、さらに近頃では忍者がるたまでとっている。これらのうち、「万葉がるた」と「近代百首」は国語科の教員が中心となり、生徒諸君との協同の製作になるものである。「……ここだもさわぐ鳥の声かも」とか「やは肌のおつき血しほに触れもみで……」とか朗々とよみ上げると、「小倉」とはまたちがった味があって楽しいものだ。かるたと同時に「投扇」といって扇を投げて箱の上の起き上がりを落とし、その扇のこげ方のよさを競うという風雅な遊びもある。これは点のよび方も夕顔とか花散里だとか源氏物語の巻々の名前で行うことになっただけで、意外と高橋勘校長がうまい。

「小倉」は横綱下村福氏をはじめ大関には上田堅一郎・高橋哲郎両氏などそうとうたる所がならんでいる。いつでも他流試合ににんじめるから自信ある向きは申し込んでいただきたい。生徒諸君もなかなか強い。いま時の生徒に小倉など無縁の存在のように思われるのだが、毎年こちらがたじたじするような名手が二、三人はいるものだ。ホームルームなどで取らしてみても、案外面白がってやっている。

さて今年「狂歌小倉」を作ってみようということになった。これやこの行くも帰るも満員の知るも知らぬも押し合いのパス食べらるる身をば思わずふとりてし豚の命の惜しくもあるかな青物屋にうち出でてみれば白菜やねぎの高ねにつりはへりつつ名にし負ふ家重代のたからもの人に知られで売るよしもがな心あてにはじかばいらむパチンコやおきまどわせる釘のかずかずあひびきの約束すらし赤電話長々し間をひとりかも待つ

世界をめぐる

松 井 英 子

(経済学部 松井七郎氏夫人)

世界をめぐる旅ゆきかへりわれは見し不毛の砂漠泥の河など

カイロ郊外夕貧しく人住みて灯とせず泥の家ありしなり

ナイルは誰に富をもたらせしナイル河畔人は貧しく歩みてるたり

ゲートの家歩道に面しるしことをふともひしなり道歩みるて

夜の飛行暗きに瞬(ひら)またひらくをりをり膝なる毛布すれきて

かささして先きゆく人のえり足の白きを  
みれば目ぞとまりける

このような秀作がつきつぎと生まれてき  
た。実さいにとつてみると読み手がます笑  
い出してしまふ仕末で腹がよじれるほど面  
白いものである。

来年は組合版いろはがるたでも作つてみ  
ようかと思つている。

い 家は建てたし金はなし  
ろ 論より証拠赤字の家計簿

は 花より質上げ

に 入試手当はすくないな

ほ 本も買えない安月給

(高校教諭・国語)

## 大隅さんのこと

嶋田敬介

「しゅじゅつは、十二にちの、ごせんちゅ  
うにやります。おとうちゃんは、ますいを  
かけられて、しんだようになつてしまいま  
す。そうするといたくなく、しゅじゅつが  
できるからです。そして、ひだりのむねを、

ながさ二十五せんちもメスできります。そ  
うすると、しんぞうがみえてきますから、  
そのしんぞうにあなをあけて、わるいとこ  
ろをなおし、なおしたら、すぐ、とくべつ  
のはりといとで、しんぞうとむねのきりく  
ちをぬいあわせませす。ちがたくさんです  
から、もらつたちをおとうちゃんのからだ  
のなかへ、けつかんからいれます。それか  
らさんそで、おとうちゃんのますいをさま  
します。それがすめば、しゅじゅつはおわ  
りです。十四日に、せいこうしたかどうか  
がわかります。それまで、まつていて下さ  
い。けんかしてはいけませんよ。」

大隅さんが、京都府立医大附属病院の手  
術室で、その短い、あまりにも短い生涯を  
おえられたのは、昨年十一月十二日のこ  
とだった。その数日前に、大隅さんは、ベ  
ッドの上で、長男の逸平ちゃんが妹の直子  
ちゃん、弟の心平ちゃんに読んで聞かせる  
ことができるように、ひらかなで、このよ  
うな手紙を書かれた。

ひごろから大隅さんの体はあまり強くな  
かった。その体で、彼は、すさまじい意欲  
をもやして研究に没頭されていた。また彼

は単なる考える人ではなくて、実践の人で  
もあつた。誰よりも先に苦しみを受け、誰  
よりも後から楽しむのだ、というような言  
葉は、ともすればキザな言葉として受けと  
られるのだが、それが大隅さんの口から出  
ると、少しもキザなものとしてではなく、  
実感をもつて迫つて来たのは、彼が、その  
言葉を本当に実践の中で生かしておられた  
からにちがいない。

大隅さんとは、お互いに近くに住んでい  
たことから、めつたに彼から手紙をもらう  
こともなかつたのだが、十月十日に、彼か  
ら次のような手紙をもらつた。「日が無意  
味ではなく、極めて意味深くすぎていき  
ます。結果的にはどうであれ、私にとつて  
は、自己の運命への桃戦の時間が刻々とせ  
まつていくことなのです。今は、勝者とな  
ることだけを夢みています。敗者になるこ  
とは、私の無をいみしますから、思考のら  
ち外のことです。雑草のようにふまれても、  
ふまれても、立ちあがれると自分を信じて  
います。」彼はたしかに死との戦いには敗  
れた。しかし、彼は無となつたのではなく、  
彼が心から愛した学生諸君や彼と接したあ

らゆる人々の胸の中にいつまでも生きつづけることだろう。

三月十五日の午後、梢夫人と三人の遺児たちは、梢夫人の両親がおられる静岡へお帰りになった。静岡で始まる御遺族の新たな御生活が辛い多いものであるように祈りたい。

(法学部助教・民事訴訟法)

## 学生の悩み

原 田 亨

カウンセリングセンターの窓口には今日も種々の問題をもって学生が訪れてくる。

私たちカウンセラーは、接する学生の悩みの中に今日の教育の陽の当たらない面を、拡大鏡でみる思いがする。

まだ問題をもって訪れる学生は幸いである。自発的に問題を解決しようとする意欲をもって相談にくるのであるから。

独り毎日下宿と学校との最短距離を往復するのみで、友人もなく、ましてやサークルには入らず、と言って勉強にも身が入らず、悩んでいる学生——これらの学生は誰

にも気付かれずに大学から消え去っていく——自殺、退学、除籍等々の形で。

最近の幼稚園の入園状況の異常さにみられるように、幼い頃から始まる激しい「生存競争」に生き残って「無事」大学に入學して——と言っても、志望の大学、学部に大多数のものは入れない——「大学入学おめでとう」と言われても嬉しいような、嬉しくないような妙な気持、心から自分を祝福できない。第一志望の大学に入った友人に対する羨望、劣等感、入学した大学に対する不平不満、勉強意欲の喪失減退、更に長い長い「受験準備期間」からの解放感も手伝って、大学社会に対する不適応現象となつて現われてくる。

大学入学までの異常な「生存競争」は入学しても終らない。就職のゴールへと目指して行なわれる。大学は四年制ではなく、実質、三年制に変わりつつある。四年目は大学における勉学の最後の仕上げの年でなく身は大学にあって、心は求人先に飛んでいるといった状態である。このようにして、毎年、四年生は卒業し、一年生が入学してくる。

大学に入ってくる学生は、入学までの長

い間、風浪にもまれ、それが充分癒やされる間もなく、またある学生は大学でその傷が大きく開き、卒業していく。

これら多くの問題をもつ学生の間にあって、私たちカウンセラーの存在は、まことに非力な、小さな存在であるかも知れない。しかし、一つの生命の火といえども風浪の中で消したくない。否、その火を更に明るく、大きく育てていきたい。また、私たちの存在が学生諸君のふみしめていく大学の道の「道標」として深く、強く根をおろしていくよう願っている。

学生の悩みを更に大きく、深くさせるような文教政策や、社会の動きがある度に、学生と共に私たちの悩みもまた深まる。ますます「期待される人間像」ではなく、逆に「ゆがめられた人間像」がつくられていくことになるからである。この大学以前の教育、就職の問題は、今や大学教育に大きな影響を与えつつある。これらの問題が大学においても充分検討され、「ゆがめられた教育」の是正を図ることが大学教育の改善に連らなり、また学生の悩みも少なくする途でもある。

(大学職員)